



日本私立歯科大学協会広報

第 85 号
令和 5 年 3 月

目 次

〈巻頭言〉	・歯学部附属病院 夜間火災想定消防訓練 …… 18
人間性豊かな歯科医師の養成を目指した 50 年	・解剖献体合同葬儀を厳修 …… 18
清浦有祐 …… 2	・交流活性化事業「歯医者さん体験」を 開催しました …… 18
〈大学のニュース〉	○松本歯科大学
○北海道医療大学歯学部	・本学がドローン操縦者養成の場に …… 18
・多職種連携・全学連携地域包括ケア実践演習	・日本歯科医学会 住友雅人会長が特別講演 …… 19
学修発表会を開催しました …… 5	・横浜 DeNA ベイスターズから育成 3 位指名 東京都市大塩尻高の今野投手を応援 …… 19
・大学院医療技術科学研究科を開設しました …… 5	・学内にソーラーカーポートが完成 …… 20
・令和 4 年度 第 42 回 九十九祭を開催しました …… 5	○朝日大学歯学部
・第 32 回日本口腔内科学会・	・「さくらサイエンスオンラインプログラム」を 実施 …… 21
第 33 回日本臨床口腔病理学会・	・若手研究者が名誉ある賞を受賞 …… 21
第 35 回日本口腔診断学会合同学術大会で	・大規模災害の発生に備える …… 21
大会長賞を受賞 …… 5	・岐阜県で初導入!! …… 22
○岩手医科大学歯学部	○愛知学院大学歯学部
・解剖体慰霊祭が行われました …… 6	・令和 4 年度 第 60 回解剖慰霊祭及び返骨式が 執り行われました …… 22
・「銀河のしずく」の稲刈り行事に	・野口俊英名誉教授が秋の叙勲において 瑞宝中綬章を受章 …… 22
小川理事長が参加しました …… 6	・歯学部学生が名古屋市と歯周疾患検診の リーフレットを作成中 …… 23
・動物慰霊祭が行われました …… 6	・歯学部長 前田初彦教授 モンゴル最高位勲章を受章 …… 23
○奥羽大学歯学部	○大阪歯科大学
・奥羽大学歯学会の開催 …… 7	・大阪歯科大学附属病院 最新型デジタル 3.0T MRI 装置 導入式典 …… 23
・大学院研究経過発表会の開催 …… 7	・京都聖母学院高等学校と 高大連携・接続協定に調印しました …… 23
・SD 研修会の開催 …… 7	・「枚方市 SDGs 推進登録制度」に認定されました …… 24
・附属病院 休日・夜間時の自衛消防訓練 …… 7	・川添堯彬理事長・学長が旭日中綬章を 受章しました …… 24
○明海大学歯学部	○福岡歯科大学
・ホワイトコートセレモニー開催	・創立 50 周年記念式典を開催 …… 25
医療人としての自覚と責任感を …… 7	・学校法人福岡学園および福岡歯科大学 50 周年記念講堂が完成 …… 25
・宮田理事長、安井学長が米国の協定校 3 校を訪問 …… 8	・保健管理センターを開設 …… 25
・メキシコ州立自治大学の学生 10 人が	・看護師を目指す学生らと多職種連携介護実習を 実施 …… 26
交換研修プログラムで来訪 …… 8	〈事業概要〉
・歯学部の松本大慶助教、湯川末郷助教が受賞 …… 9	○理事会 …… 27
○東京歯科大学	○部会・委員会 …… 30
・標本室の移設 …… 9	○事務局長会議 …… 31
・市川総合病院歯科外来棟新設	○研修会 …… 31
オープニングセレモニー開催 …… 10	○第 13 回歯科プレスセミナー …… 32
・東京歯科大学リカレント教育セミナー開催 …… 10	〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉
○昭和大学歯学部	○第 43 回全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会 …… 33
・歯科基礎医学会学術大会 モリタ賞を受賞 …… 11	○第 48 回全国私立歯科大学・歯学部附属病院 看護部長会 …… 33
・総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試・	○第 26 回日本私立歯科大学・歯学部附属病院 歯科技工士協議会 …… 33
卒業生推薦入試・編入学試験を実施 …… 12	○令和 4 年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院 診療放射線技師代表者会 …… 34
・松本光吉名誉教授が瑞宝中綬章を受章 …… 12	〈叙勲〉 …… 35
・ヒト iPS 細胞から唾液腺オルガノイドの	〈計報〉 …… 35
作製に成功 …… 12	〈人事異動消息〉 …… 35
○日本大学歯学部	〈協会役員・部会・委員会名簿〉 …… 39
・ワールド・カフェ …… 13	〈賛助会員企業紹介〉 …… 43
○日本大学松戸歯学部	〈一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿〉 …… 44
・「松 1 グランプリ」を初開催 …… 13	〈編集後記〉 …… 44
・新校舎新築工事(50 周年記念事業)がスタート …… 14	
○日本歯科大学生命歯学部	
・歯の細胞から my iPS 細胞を	
—中原教授・iPS 財団へ歯の細胞を提供— …… 14	
・中原爽前理事長・元学長逝去 …… 15	
・本館改修工事終わる …… 15	
○日本歯科大学新潟生命歯学部	
・初のハノシゴトフェス開催	
新潟県内の小中高生が参加 …… 15	
○神奈川歯科大学	
・病院だより …… 16	
・ねんりんびっくかながわ 2022 …… 16	
・クリニックだより …… 17	
○鶴見大学歯学部	
・河端和音助教 日本私立学校振興・共済事業団 2022 年度若手研究者奨励金 採択決定 …… 17	

巻頭言

人間性豊かな歯科医師の養成を 目指した50年



奥羽大学学長
清 浦 有 祐

今から50年前の東北地域は、齲蝕や歯周病に悩む多くの患者さんが歯科医師と歯科診療所の少なさから十分な歯科医療を受けることができない状態にありました。そのような状況を打破するために、創立者である影山四郎先生は、1972年に福島県郡山市に東北初の歯科大学である東北歯科大学を建設されました。

その当時、歯学部を創立することは非常に困難なことと考えられていたため、周囲からは反対の声が多数寄せられました。しかし、創立者はそのような反対にも動ぜずに、確固たる信念に基づいて歯科大学を開学されました。その後、東北歯科大学は1988年に奥羽大学に名称を変更し、現在は歯学部・大学院歯学研究科・薬学部を有する医療系総合大学となっています。

今年、即ち2023年は創立50周年を通過して51年目となりますが、本学の建学理念である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する」ことは、奥羽大学の卒業生・教員・学生全員が深く認識していることであり、最も大切にしていることです。

この「人間性豊かな歯科医師を養成する」と

いう理念の重要性とこれを理念とされた創立者の想いは、学長として職務を遂行するにつれて、ますます深化した形で理解できるようになりました。

この理念こそは、2023年の日本の歯科界全体で求められているものと確信しています。「人間性豊かな歯科医師」とは、「人を思いやる心を持った歯科医師」ということになります。「人を思いやる心」とは、「他人を大切に思う心」であり、「一人一人の人間の人格を相互に尊重する」ことになります。

そのことを実現するために、歯学部の教員はどのようにすべきでしょうか。まず、行うべきことは、「学生一人一人に寄り添った教育を行うこと」です。具体的には、「学生個々の成績を数値で正確に把握し、各自の得意科目・不得意科目はもちろんのこと、そのパーソナリティにも配慮した上での指導」を行わなくてはなりません。

現在の日本は、ソサエティー5.0と呼ばれる社会の実現を目指しています。ソサエティー5.0とは、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシス

テムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会です。狩猟社会（1.0）、農耕社会（2.0）、工業社会（3.0）、情報社会（4.0）に続く、新たな社会を指すもので、政府の第5期科学技術基本計画において目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。教育においては、「各個人のそれぞれの興味・関心・能力に応じた最適な学び」を提供することになります。

そのためには、前述した「学生個々の成績を数値で正確に把握し、各自の得意科目・不得意科目はもちろんのこと、そのパーソナリティにも配慮した上での指導」、すなわち、「人を思いやる心」、「他人を大切に思う心」、「一人一人の人間の人格を相互に尊重する」ことを教育の場で実践し、一人一人の学生の学力をデータ化して、その学生の学力をどのように伸ばさせるべきかを客観的に示すことになります。

さらに「高度な専門知識と技術を備えた」という言葉は、高度な医療技術を備えた我が国の口腔保健を担う有為な歯科医師を養成することを意味します。そのため、高度な医療技術を教示し、それを実践できる歯学生を養成することも極めて重要な課題です。さらにこの技術は高度な専門知識に裏打ちされたものでなくてはならないことは言うまでもありません。また、「ムーンショット」という言葉で表現される現在の医療技術の革命的变化に対応できるためにも、高度な専門知識とそれを常にバージョンアップさせる能力を身に付けさせることも必要となります。

したがって、歯科医学教育が今まで以上に重要なものとなります。その際に最も大切なことは人と人、すなわち、学生と教員、あるいは学生相互、教員相互のつながりです。この3年間にわたる新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会に様々な影響を及ぼしましたが、人と人が

直接会って話すこと、語り合うことの大切さを改めて実感できたのではないのでしょうか。技術や知識を教える際に最も大切なことは、それを担当する教員の人間性、すなわち相手を思いやる心で、それは学生の記憶に刻まれます。そして、その学生が教員になった時には、その優しさが、次の学生に伝わり、大学の伝統になっていくのだと思います。

私自身は、奥羽大学歯学部にて3期生として入学しました。入学して強く感じたことは、若手の助手、講師クラスの教員の方々の教育熱心さです。臨床実習では夜遅くまで技工物の作成を指導していただいたり、口頭試問を何度もしていただいたことを懐かしく想うと共に、我々もこの情熱を後輩教員に受け継いでいかななくてはと痛感しています。

昨年、「国民皆歯科検診」という言葉が広く知れ渡り、口腔保健が全身の健康に大きく影響することは国民の常識になりつつあります。これは歯科界の多くの先輩方の努力の賜物であり、先人の方々の努力に感謝の気持ちしかありません。内閣府は、「現在の少子高齢化社会を切りひらき、誰もが夢を追求できる社会や、高齢になっても健康の不安なく、人生を楽しめる社会の実現を目指しています」が、これを実現するために「ムーンショット計画」が立案されています。この計画の目標7に、「2040年までに主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現」することがあります。当然のことながら、歯科医学・医療もこのことに大きく貢献できると考えます。特に歯周病は慢性的な歯周組織の炎症状態が継続することから、全身の健康に悪影響を及ぼすと考えられます。したがって、歯周病学の進歩と発展は、ムーンショット計画にも大きく寄与できるはずで

今年ほど歯科医学の長い歴史の中で、社会全体からその重要性が理解されている年はないと考えます。我が国のすべての歯学部にとって、学生諸君に歯科医学を学ぶこと、将来歯科医師になることの誇りと喜びを伝えることができる素晴らしい年になると信じています。

創立者に残していただいた「人間性豊かな歯科医師」という理念をしっかりと胸に刻んで、「主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現」することに貢献できる歯科医師を養成し、この実現に寄与できる歯科医学研究を担える研究体制も構築していきます。

〈筆者の略歴〉

1980年 東北歯科大学（奥羽大学）歯学部卒業
1989年 米国ハーバード大学医学部細胞生物学講座
博士研究員
2004年 奥羽大学歯学部口腔病態解析制御学講座
教授
2012年 奥羽大学大学院歯学研究科 研究科長
2022年 奥羽大学 学長 現在に至る

大学のニュース

■北海道医療大学歯学部■

多職種連携・全学連携地域包括ケア 実践演習学修発表会を開催しました

多職種連携・全学連携地域包括ケア実践演習（8/3～8/5、あいの里キャンパス）では、各学部・学校から参加した22名の高学年の学生（学部3～4年、大学院2年）が、学科・学校混合の3つのグループにわかれ、20名の教員と附属施設のスタッフによるサポートを受けながら演習を行いました。

演習では、本学地域包括ケアセンターにおける三つの事業所（訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、在宅歯科診療所）がサービスを提供する現場（利用者様の自宅）に代表する学生が同行しました。同行学生は、利用者様・ご家族・スタッフと教室に待機する学生のやり取りを、遠隔通信で仲介しました。地域包括ケアシステムにおいて展開される多職種連携協働についてリアルな現場を見学し学ぶとともに、専門職が協働して課題に取り組むための話し合いの技術についても体験的に学びました。

最終日に実施した、各グループによる学習発表会では、十分なソーシャルディスタンスを保った状態で満員の教室と、ZOOMでは40名を超える学生・教職員の参加がありました。ZOOM参加者や、本学地域包括ケアセンター職員、本学附属病院医療相談・地域連携室職員などから質問や感想などいただき、盛況のうちに開催することができました。

本学の多職種連携教育につきましては、地域の利用者様、施設職員様のご協力をいただき、初年次よりはじまり大学院を含む高学年までの系統的な体系づくりを進めております。今後とも、皆様にご指導、ご協力いただきたく、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和4年8月掲載)

大学院医療技術科学研究科を 開設しました

令和4年8月31日付けで文部科学省大学設置室より、北海道医療大学大学院医療技術科学研究科（臨床検査学専攻修士課程）の設置を認可する旨の通知がありました。

大学院医療技術科学研究科は、人々の健康増進と保健

医療の発展のために、臨床検査学の先進的な知識と技術を修得、実践し、かつ、応用力と自己成長ができる指導的役割を担う高度専門職業人を養成することを目的としています。

令和5年4月に開設し、学部からの進学希望者をはじめ、臨床検査分野に携わる社会人の方々の受け入れも行ってまいります。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和4年10月掲載)

令和4年度 第42回 九十九祭を開催しました

10月15日(土)に、令和4年度の北海道医療大学大学祭「九十九祭」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は学内関係者（学生、教職員等）のみでの開催となりましたが、全体の来場者は350名程度あり、久しぶりの大学生らしいイベントに、参加した学生は大変楽しそうな様子でした。

新型コロナウイルス感染症の影響により、2年ぶりの開催となり以前の大学祭を知っている大学祭実行委員がほとんどいない中で、ゼロから企画・準備を行った大学祭実行委員会は本当に大変だったのではないかと思います。

大学祭では、徹底した感染症対策を施し、キッチンカー7台の出店やステージ発表（お笑いライブ、ビンゴ大会等）が行われ、盛況のうちに終了しました。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和4年10月掲載)

第32回日本口腔内科学会・ 第33回日本臨床口腔病理学会・ 第35回日本口腔診断学会 合同学術大会で大会長賞を受賞

2022年9月23日から24日に札幌市教育文化会館で開催（ポスター発表のみオンライン開催）されました第32回日本口腔内科学会・第33回日本臨床口腔病理学会・第35回日本口腔診断学会合同学術大会において、本学から3名が一般演題（ポスター）の大会長賞を受賞しました。

※表記はポスター演題番号順。

高橋 周平（大学院歯学研究科 生態機能・病態学系 臨

床口腔病理学分野・大学院生)

演題名：歯根膜培養上清を用いた歯髓細胞の歯根膜様細胞への誘導におけるメチル化解析

藤井 彩貴（大学院歯学研究科 生態機能・病態学系 組織再建口腔外科学分野・大学院生）

演題名：抜歯窩治癒過程における Gli1 陽性歯根膜細胞の細胞系譜解析

Durga Paudel（先端研究推進センター・助教）

演題名：Transcriptome analysis of submandibular gland under chronic psychological stress

第32回日本口腔内科学会・第33回日本臨床口腔病理学会・第35回日本口腔診断学会合同学術大会ホームページ

<https://www.sangakkai2022.org>

北海道医療大学ホームページトピックス

(令和4年10月掲載)

■ 岩手医科大学歯学部 ■

解剖体慰霊祭が行われました

6月25日(土)、大堀記念講堂において、第85回解剖体慰霊祭がしめやかに執り行われ、祖父江学長をはじめとする本学教職員と学生、ご遺族が参列しました。

慰霊祭では84霊（正常解剖59霊、病理解剖17霊、実践的手術手技向上研修8霊）の御霊に対する黙禱に続き、祖父江学長から祭詞が捧げられました。学生を代表して歯学部3年柳町智也さんからは「医学・歯学を志す者として成長する貴重な機会を与えてくださったことに、深い感謝の意を表します」と慰霊のことばが捧げられ閉式となりました。

式終了後、新型コロナウイルス感染症対策として別会場にてライブ配信により参列していた学生も大堀記念講堂に移動し、参列者全員による献花が行われ、ご献体された多くの方々へ深い感謝の意を表すると共にご冥福をお祈りしました。



大堀記念講堂で行われた解剖体慰霊祭
岩手医科大学報 vol.543 (令和4年9月発行)

「銀河のしずく」の稲刈り行事に 小川理事長が参加しました

9月23日(金)、矢巾町の圃場で行われた「銀河のしずく」の稲刈り行事に小川理事長が参加しました。この行事は、「銀河のしずく」の消費拡大と地産地消に係る取り組みの一環として、地域の一大消費者である本学附属病院（病院食に採用）と生産者等が協同して稲刈りをし、交流の場を設けようと矢巾町が企画したものです。

当日は、小川理事長の他、高橋昌造矢巾町長、岩手中央農業協同組合や盛岡広域振興局等関係者20名程が参加しました。小川理事長は『患者さんから「銀河のしずく」の病院食に対し、大変美味しいという声をいただいている。このお米を患者さんが食べて元気になってほしい』と期待を寄せていました。



稲刈りに参加した関係者
岩手医科大学報 vol.544 (令和4年11月発行)

動物慰霊祭が行われました

10月3日(月)、大堀記念講堂で、第55回動物慰霊祭が執り行われ、祖父江学長をはじめとする教職員のほか、医・歯・薬学部の学生が参列しました。

式では、昨年度教育及び研究に供された動物に対する黙禱の後、祖父江学長並びに歯学部2年今野日南子さんから慰霊のことばが捧げられました。続いて、那谷動物研究センター長から挨拶があり、慰霊祭が終了しました。

式終了後、新型コロナウイルス感染症対策として別会場にてライブ配信により参列していた学生も大堀記念講



歯学部2年今野さん 慰霊のことば

堂に移動し、参列者全員が慰霊柱を参拝し、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。

岩手医科大学報 vol.544 (令和4年11月発行)

■奥羽大学歯学部■

奥羽大学歯学会の開催

第71回奥羽大学歯学会が、6月18日(土)に開催された。新型コロナウイルス感染症の現状に配慮して、Zoomによるオンラインでの開催となった。学内学会の特徴を反映して、広範な分野から学位口演2演題を含めた6演題の発表があり、それぞれの演題について活発な質疑応答が展開された。

当日は、若手教員の研究奨励のための学会賞と発表賞の表彰も行われ、学会賞は口腔病態解析制御学講座の眞島いづみ講師が、発表賞は口腔外科学講座の高良宗斉助教と歯科補綴学講座の内山梨夏講師が受賞した。

奥羽大学報 172号 (No.297) (令和4年10月発行)

大学院研究経過発表会の開催

2022年度の大学院研究経過発表会が、8月31日(水)13:00から15:20まで開催された。新型コロナウイルス感染症対策として、Zoomを用いたオンラインでの開催であった。来年度に学位申請を行う予定の11名の大学院生が、今までの研究成果及び今後の研究の展開について発表を行った。それに対して大学院教員から多くの助言が与えられ、学位論文の質的向上に貢献する有意義な発表会となった。

奥羽大学報 172号 (No.297) (令和4年10月発行)

SD研修会の開催

2022年度のSD研修会が、9月28日(水)17:10から17:40までZoomを用いたオンライン形式で開催された。講師は本学歯学部の板橋 仁准教授で、「新型コロナウイルスの感染対策と感染時の対応」と題したセミナーであった。本学の新型コロナウイルス感染拡大阻止に関する今までの取組みと現在の対応方針について、詳しい説明が行われた。今後も引き続き感染対策を行う必要性が認識でき、教職員にとって非常に有意義なSD研修会となった。

奥羽大学報 172号 (No.297) (令和4年10月発行)

附属病院

休日・夜間時の自衛消防訓練

9月7日(水)附属病院において、歯科医師、看護師、事務職員など30名が参加し、休日・夜間時の自衛消防訓練が行われた。地震および火災発生時の通報連絡の手順、4人体制による担架搬送訓練を実施した。2021年2月や2022年3月の地震は夜間に発生しているが、入院患者は1人のけがもなく避難誘導され、年1回ではあるがこの訓練が生かされていると思われる。



休日・夜間時の自衛消防訓練

奥羽大学報 172号 (No.297) (令和4年10月発行)

■明海大学歯学部■

ホワイトコートセレモニー開催 医療人としての自覚と責任感を

保健医療学部口腔保健学科1年生を対象とした「ホワイトコートセレモニー(白衣授与式)」が7月3日に浦安キャンパスで開催された。ホワイトコートセレモニーとは学生に白衣を授与することによって医療に携わる自覚を促す式典で、保健医療学部では開設以来毎年行っている。昨年、一昨年はコロナ禍により学生と教員のみでの縮小開催となっていたが、今年は感染対策を講じながらも、3年ぶりに保護者や来賓の方々を招いての開催となった。

セレモニーでは、初めに安井利一学長からの告辞、藤内祝学部長からの式辞、中村睦夫歯学部同窓会長および北原淳浦安キャンパス同窓会長からの祝辞があり、その後、学生全員が登壇し、教員から受け取った白衣に袖を通した。

白衣は歯学部同窓会と浦安キャンパス同窓会から寄贈されたもので、左胸ポケットにはギリシャ神話に登場する名医アスクレーピオス(Aesculapius)が持つ杖をモチーフとした保健医療学部のエンブレムをあしらひ、右

袖には学生氏名の刺繍が施されている。

学生を代表して伊東保風さんから「患者様に寄り添った保健医療を実践するために、自覚と責任感を持ち、知識と技術、医療人としての感性を磨き、日々学び続けます。今日の日の思いを深く胸に刻み、仲間とともに成長し歯科衛生士への道を歩み続けることを誓います」と力強い宣誓があった。



白衣に袖を通す保健医療学部生

MEIKAI NEWS LETTER 第248号 (令和4年10月発行)

宮田理事長、安井学長が 米国の協定校3校を訪問

建学の精神である「国際未来社会で活躍する人材の育成」に基づき、大学全体で力を入れている奨学海外研修などの海外研修をはじめとした協定校との交流は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により2020年からの約2年半の間、滞っていたが、2022年夏季に海外研修は再開し、学生の相互交流が行われている。今回は交流再開の感謝とさらなる交流活性化を目的として、宮田淳理事長、安井利一学長、そして姉妹校である朝日大学の大友克之学長が、10月7日から同15日まで、米国の協定校（カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)、テキサス大学サンアントニオ校およびタフツ大学）の3校を訪問した。

■カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)

UCLAの特色である教員から直接教授される生涯研修の中心となっているヘンリー タケイ先生をはじめ研修部長の河津寛先生、UCシステム総長のジーン ブロック先生、そしてポール クレスバック歯学部長とお会いし、将来を見据えて今後ともコミュニケーションを図りたいと意見交換をした。

■テキサス大学サンアントニオ校

ウィリアム ヘンリッチ学長の表敬訪問のほか、生涯研修で有名なピーター ルーマー歯学部長、ソイヤ ハーディン看護学部長とお会いし、州立大学ならではの多様な施設での学修機会、学生の研究意欲の高さ、国際歯科

研究学会(IADR)での優秀な成績、そしてリサーチマインドの養成について興味深いお話を伺った。

■タフツ大学

交流を深めてきた歯学部の執行部の先生方は退任されていたが、グローバル・エデュケーション担当のジョン モーガン教授らとお会いし、これまでの両大学の交流や今後の学生交流、研究、そして生涯研修などについて議論した。

明海大学は、建学の精神に則り、今後も学生のため、教員のために国際化を強力に推進していく。



UCLAでの様子 宮田理事長(右から5番目)を囲むジーンブロック UCシステム総長(左)とポール クレスバック歯学部長(右)

MEIKAI NEWS LETTER 第249号 (令和5年1月発行)

メキシコ州立自治大学の学生10人が 交換研修プログラムで来訪

歯学部では「国際的な歯科医師を育成する環境」を整え、海外協定校との相互交流に力を入れている。中でも、交換研修プログラムはその大きな特色の一つで、在学中に諸外国の歯科医学の現状を学ぶことができるとともに、研修に参加した学生が海外から研修生を迎えることで、継続的かつ相互的な交流が実現できるプログラムである。

このプログラムは2020年以降中断していたが、今夏から一部再開し、8月には5人の学生がメキシコ州立自治大学(以下、UAEM)での研修に参加した。そして9月30日、交換研修として2年ぶりにUAEMの学生10人と引率教員2人が、坂戸キャンパス(歯学部)を訪れ



歯学学部長(前列右から3人目)とメキシコ州立自治大学一同

た。

申基詰歯学部長から、先月のUAEMでの研修について感謝の意が述べられた後、午前は本学の研究、教育、国際交流についての講義、付属病院見学ツアーを実施した。昼の歓迎ランチパーティーでは、本学オリジナルの法被（はっぴ）に袖を通したUAEM学生らが写真撮影を楽しむなど、会場は和やかな雰囲気に入れ、両校の学生同士で約1カ月ぶりの再会を喜び合った。

MEIKAI NEWS LETTER 第249号（令和5年1月発行）

歯学部の松本大慶助教、湯川未郷助教が受賞

松本大慶助教 日本咀嚼学会優秀奨励賞受賞

10月1日と2日の2日間、徳島県徳島市の徳島大学蔵本キャンパス大塚講堂小ホールで開催された「特定非営利活動法人 日本咀嚼学会第33回学術大会」で、歯学部の松本大慶助教（有床義歯補綴学分野）が日本咀嚼学会優秀奨励賞を受賞し、表彰された。この賞は今後の咀嚼と健康に関する研究発展に寄与すると評価された論文を表彰するものであり、受賞論文では有床義歯装着高齢者の感じる味覚機能の特性について明らかにした。松本助教からは今回の受賞について「このような名誉ある賞をいただくことができ、大変光栄です。ご指導いただきました諸先生方に心より感謝申し上げます」と喜びの声が聞かれた。

論文題名：有床義歯装着高齢者の味覚機能（日本咀嚼学会雑誌 2021；31（2）：58-71）



松本助教（左）と志賀博日本咀嚼学会理事長

湯川未郷助教 優秀演題賞受賞

10月5日から7日、大阪国際会議場で開催された「第81回日本矯正歯科学会学術集会&第9回日韓ジョイントシンポジウム」で、歯学部の湯川未郷助教（歯科矯正学分野）が、優秀演題賞を受賞した。この賞は日本矯正歯科学会から、我が国の歯科矯正学の教育・研究の進歩発展や矯正歯科医療の充実に優れた功績が認められた者に授与されるもので、この研究では矯正力負荷による歯

の移動に伴う疼痛および炎症性サイトカインであるCINC2発現の増加の抑制へのTRPチャネルの関与を明らかにした。

湯川助教は「大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。今後も微力ながら歯科矯正学の研究の発展に貢献できるよう努めてまいります」と受賞の感想を話した。

論文題名：TRPチャネル拮抗薬の歯肉塗布による歯の移動に伴う疼痛抑制とCINC2発現抑制



湯川助教

MEIKAI NEWS LETTER 第249号（令和5年1月発行）

東京歯科大学

標本室の移設

東京歯科大学解剖学教室 阿部伸一

本学の標本室には、大学の130年を越える長い歴史の中で集められた貴重な標本が多く展示されている。この標本室が、これまでの南棟から本館11階に移設されたので紹介させていただく。

(1) 歯列模型および成長過程の頭蓋骨

日本で唯一、同一患者で2か月ごとに記録された歯列模型を、小児期から成人に至るまで一列に並べ展示することによって、頭蓋骨と歯列の成長の関係を考えながら見学していただけるように工夫した。

また、出生直後から成人に至るまでの頭蓋骨標本を展示し、標本の一部は顎骨内部の歯の発育状況が判るような標本作製、展示した。

(2) 血管鋳型標本展示

顎骨との位置関係を示した血管鋳型標本作製し、顎頭部の血管系を立体的に理解できるように展示した。

(3) その他

比較解剖（食性の違いによる頭蓋骨の形態の違い）・歯の標本展示など、標本室を訪問していただいた方に興味をもって見学していただけるように展示方法を工夫した。



日本で唯一の小児期から成人に至るまでの歯列模型



東京歯科大学広報 第307号 (令和4年12月発行)

市川総合病院歯科外来棟新設 オープニングセレモニー開催

2022年9月2日(金)午後4時より、市川総合病院歯科外来棟新設に伴いオープニングセレモニーが執り行われた。水野利彦市川総合病院事務部長の司会のもと、

井出吉信理事長、一戸達也学長、西田次郎市川総合病院院長、野村武史口腔腫瘍外科学教授の挨拶に続きテープカットが行われた。

新棟は各診察室も広くなり、壁を高くするなどプライバシーにも配慮しており、これまでと同様に口腔外科を中心とする歯科治療を行うほか、皮膚科との粘膜疾患合同外来、神経内科との顎顔面痛合同外来、整形外科との顎骨壊死予防外来など、医科と歯科の垣根を越えそれぞれの専門性を活かした診療が行われる。また、日帰り全身麻酔での小手術が可能な手術室を新設し、全身疾患や障がいをお持ちの患者さんをより積極的に受け入れられるような設備を完備しており、ベッドや車いすに乗ったまま診察室に入れるほか、車いす用トイレやオストメイトトイレも備えたバリアフリーな設計となっている。

今後も医科・歯科連携も深めていけるよう、歯科・口腔外科及び口腔がんセンターのさらなる充実を図り、地域の中核病院としての役割へ一層貢献することが期待される。



テープカットの様子(左より)松浦信幸教授、西田病院長、井出理事長、一戸学長、野村教授



歯科外来新棟の外観

東京歯科大学広報 第307号 (令和4年12月発行)

東京歯科大学 リカレント教育セミナー開催

2022年10月15日(土)に開催された第314回東京歯

科大学学会・総会において、東京歯科大学リカレント教育セミナーが、東京歯科大学研究ブランディング事業（顎骨疾患プロジェクト）と東京歯科大学大学院、東京歯科大学同窓会の共催で開催された。今年度は「歯周病」をめぐる基礎と臨床の架け橋～「顎骨疾患プロジェクト」と臨床医との医療情報交換」と題しハイブリッド形式で行われ、243名（会場75名、オンライン168名）が参加した。

当日は片倉朗副学長の総合司会で進められた。一戸達也学長による開会の挨拶に引き続き、顎骨疾患プロジェクト推進委員会委員長の山口朗客員教授よりリカレント教育の重要性と当日のセミナーの概要が紹介された。

セミナーでは基礎系と臨床系から6名の演者が講演した。基礎系では、最初に微生物学講座の石原和幸教授が「歯周病とマイクロバイーム」と題して口腔内細菌の最新情報を講演した。続いて東京大学医学部免疫学特任助教であり本学微生物学講座非常勤講師の塚崎雅之先生が「歯周病と骨免疫」について、口腔科学研究センターの大野建州講師が「歯周病とサイトカイン」について、宿主の観点から最新情報を講演した。

臨床系では、最初に慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室教授であり本学歯周病学講座客員教授の中川種昭先生が「基礎疾患を考慮した歯周病治療について」と題し、糖尿病を含めた全身疾患を持つ患者に対する歯周病治療について講演した。次いで、二階堂歯科医院院長であり水道橋病院臨床教授の二階堂雅彦先生が「歯周組織再生療法の役割」について、歯周病学講座の齋藤淳教授が「塩基性線維芽細胞増殖因子（FGF-2）製剤を使用した歯周組織再生療法」について講演した。二階堂先生と齋藤教授の講演により、歯周組織再生療法の進歩と大学での臨床研究が進んでいることが理解できた。

最後に東京歯科大学同窓会長の澁谷國男先生より閉会の挨拶があり、セミナーは終了した。

今回のリカレント教育セミナーには多くの方が参加し、多くの質疑応答が行われ、有意義なものとなった。大学と同窓会が特定のテーマでリカレント教育セミナーを行っている大学は本学以外にはないことから、このス



2022 リカレントセミナー会場



同窓生とともに受講する学部学生の様子

タイトルでのセミナーをさらに継続し、大学と同窓会が連携して、優れた歯科医療の推進により一層貢献することが期待される。

東京歯科大学広報 第307号（令和4年12月発行）

■ 昭和大学歯学部 ■

歯科基礎医学会学術大会 モリタ賞を受賞

9月17日～19日に徳島県で開催された第64回歯科基礎医学会学術大会において、大学院生2名が、各分野で最も優れた成果を発表した若手研究者に贈られる、モリタ優秀発表賞を受賞しました。

■薬理学部門

演題名「妊娠マウスへの骨吸収抑制薬投与は仔マウスの歯の成長障害をもたらす」

臨床との両立や難しい実験に苦悩もしましたが、苦しくても1つ1つ丁寧に正面から向き合ったこと、諦めなかったこと全てが質を高めることに繋がりました。また、その都度支えてくれた方達の想いが背中を押してくれました。指導・応援して下さった高見正道教授、坂井信先生、歯科薬理学の先生方、小児歯科学の先生方から感謝申し上げます。

（大学院4年 小児成育歯科学専攻 山口真帆）

■解剖学・組織発生学部門

演題名「脱細胞化技術を応用した人工唾液腺の作出」

私は美島健二教授の「Science is tough」と、田中準一先生の「誰も取りたがらないデータにこそ価値がある」という言葉を念頭におき、日々研究に励んでいます。今後も一つ一つのデータを大切に、新しい発信ができるよう邁進いたします。最後になりましたが、美島健二教授、医局員の先生方、共同研究先の先生方に深く御礼申し上げます。

（大学院3年 口腔病理学専攻 大沼慎太郎）



昭和大学 歯学部だより 第219号 (令和4年12月発行)

総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試・卒業生推薦入試・編入学試験を実施

10月1日(土)に総合型選抜入試一次試験、10月22日(土)に同二次試験、11月26日(土)に学校推薦型選抜入試・卒業生推薦入試・編入学試験が旗の台キャンパスで行われました。

総合型選抜入試は、初めて実施された昨年度より受験者が増加し41名の志願者から30名(男子11名、女子19名)の一次試験合格者が決定し、二次試験で模擬授業および理解度の確認、面接が実施され、6名(男子1名、女子5名)の合格者が発表されました。推薦入試の志願者は、学校推薦型選抜入試と卒業生推薦入試をあわせて55名で、32名(男子14名、女子18名)が合格しました。編入学試験は6名の志願者があり、合格者は2名(男子)でした。

今後の入試日程は、令和5年2月5日(日)に一般選抜入試(I期)と大学入学共通テスト利用入試の面接試験、3月5日(日)に一般選抜入試(II期)が実施されます。



昭和大学 歯学部だより 第219号 (令和4年12月発行)

松本光吉名誉教授が 瑞宝中綬章を受章

令和4年秋の叙勲において、松本光吉名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました。

松本名誉教授は、昭和38年に東京医科歯科大学歯学部をご卒業後、昭和58年から26年の長きにわたり歯内治療学部門の教授を務められ、また昭和大学図書館長も兼任されるなど、昭和大学歯学部創成期よりその発展に大きく寄与されました。在職中は、留学生の受け入れや海外での講演など、常に国際的視野をもって幅広く教育活動が続けられるとともに、歯内療法へのレーザーの応用について深く研究され、日本におけるレーザー歯学の第一人者として長年にわたり活躍されました。昭和大学そして日本の歯科医療・歯科医学の発展に大きく貢献された功績が評価され、このたびの受章となりました。

松本名誉教授のご受章を心よりお祝い申し上げます。



昭和大学 歯学部だより 第219号 (令和4年12月発行)

ヒト iPS 細胞から 唾液腺オルガノイドの作製に成功

昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門の田中準一講師、美島健二教授、国立感染症研究所の泉福英信室長(現:日本大学松戸歯学部教授)と鶴見大学歯学部病理学講座の斎藤一郎教授(現:株式会社クレインサイエンス代表)らを中心とした共同研究グループは、ヒト iPS 細胞から唾液腺オルガノイドの作製に成功しました。本研究成果は、これまで昭和大学を中心とした研究グループがマウス ES 細胞より作出した唾液腺オルガノイド(Nat Commun. 2018)に引き続いて行われた世界に先駆けた成果となります。

唾液腺は口腔内に唾液を分泌する組織です。唾液は消化作用、抗菌作用および口腔粘膜の保護作用などを有し、口腔内環境の維持に重要な役割を果たしています。

近年、唾液分泌低下による口腔乾燥症患者の増加が指摘され、症状の重篤な場合には、著しいQOL (Quality Of Life) の低下をもたらすことが懸念されています。

共同研究グループは、ヒトiPS細胞から誘導した口腔粘膜上皮から唾液腺の分化過程を段階的に再現し、三次元的な唾液腺器官の再生に成功しました。今回、iPS細胞から誘導した唾液腺原基(唾液腺オルガノイド)は、形態学的な特徴や遺伝子発現解析からもヒト胎生期の唾液腺原基に類似していました。また、大唾液腺の1つである耳下腺を摘出した免疫不全マウスに、唾液腺オルガノイドを同所性移植することにより、移植したオルガノイドの導管と残存唾液腺の導管が接続することが確認されました。

今回得られた唾液腺オルガノイドは、唾液腺発生メカニズムの解析はもとより、唾液分泌障害に対する再生医療や唾液腺疾患解析、創薬スクリーニングの有用なツールとなることが期待されます。本成果は英国の科学雑誌『Nature Cell Biology』に10月17日付(日本時間10月18日)に掲載されました。

〈掲載誌〉

Nature Cell Biology (impact factor 2021-2022: 28.824)

〈論文名〉

Human induced pluripotent stem cell-derived salivary gland organoids model SARS-CoV-2 infection and replication

〈著者名〉

Junichi Tanaka*, Hidenobu Senpuku, Miho Ogawa, Rika Yasuhara, Shintaro Ohnuma, Koki Takamatsu, Takashi Watanabe, Yo Mabuchi, Shiro Nakamura, Shoko Ishida, Tomohiko Sadaoka, Takashi Takaki, Tatsuo Shirota, Toshikazu Shimane, Tomio Inoue, Takayoshi Sakai, Munemasa Mori, Takashi Tsuji, Ichiro Saito, and Kenji Mishima 1* (*corresponding author)

〈DOI〉

<https://www.nature.com/articles/s41556-022-01007-6>

SHOWA UNIVERSITY NEWS (昭和大学新聞)

第611号(令和5年1月発行)

■ 日本大学歯学部 ■

ワールド・カフェ

第1学年『自主創造の基礎』の授業の一環として日本大学ワールド・カフェが6月5日(日)にオンラインにて

開催されました。ワールド・カフェとは、Juanita Brown氏とDavid Isaacs氏によって、1995年に開発・提唱された対話手法です。その名の通りカフェのようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルでテーマについて対話を行い、他のテーブルのメンバーとシャッフルして対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることを特徴としています。

今年度の日本大学ワールド・カフェには日本大学全学部(16学部、通信教育部、短期大学部)の第1学年、約16,000人が参加し、キャンパスの垣根を越えて交流を行いました。本授業は初開催された2017年以降、複数のキャンパスを会場として対面で行われていましたが、コロナ禍に入ってからオンラインで開催されています。歯学部支店には、まさに言葉通り日本全国の様々な学部から約230人の学生が来店し、「所属学部や他学部のことを知って日本大学について考える」という今年度のテーマについて積極的な話し合いが行われました。

当日は、オンライン開催ならではのトラブルに見舞われたものの、全体の流れは乱れることなく、スムーズな進行となりました。



ワールド・カフェ担当教職員

桜歯ニュース 第216号(令和4年10月発行)

■ 日本大学松戸歯学部 ■

「松1グランプリ」を初開催

コロナ禍により、オンライン授業の導入、行事のオンライン化や中止、クラブ活動の休止などが続き、学生が同級生、先輩・後輩、教員などと良好な人間関係を築く機会が減少している。こうした状況の中、学生たちの人間関係構築を支援するため、6月25日(土)に学生会及び学生生活委員会の企画・運営によるレクリエーション大会「松1グランプリ」が初めて開催された。今年度は学部1~4年次及び専門学校1~3年を対象とし、クイズ大会やドッジボール大会が行われた。



松戸歯ニュース 第181号（令和4年9月発行）

新校舎新築工事(50周年記念事業)がスタート

2021年に学部創設50周年を迎えた日本大学松戸歯学部では、記念事業として新校舎の建設を行う。

2024年の使用開始を目指し、設計など準備が進められていたが、2022年6月23日に地鎮祭が執り行われ、新築工事がスタートした。新校舎は、これまで中庭・患者用駐車場があったキャンパス中央に建設される。

既存の教育実習棟・管理研究棟は解体され、跡地には守衛所が新築される他、駐車場などに使用される。

現在101教室などが入っている校舎棟は、新校舎へ引越し後に閉鎖され、新校舎へすべての機能が集約される予定である。

新校舎棟の建設は2023年度一杯続き、2024年4月か



ら使用を開始する予定である。使用開始後も既存建物の解体など関係工事が続き、一連の建設事業がすべて完了するのは2026年3月という長丁場となる。

松戸歯ニュース 第181号（令和4年9月発行）

■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

歯の細胞から my iPS 細胞を

— 中原教授・iPS 財団へ歯の細胞を提供 —

本学生命歯学部発生・再生医科学講座の中原 貴教授らは、公益財団法人の京都大学 iPS 細胞研究財団（iPS 財団）と、ヒト歯髄幹細胞から樹立した iPS 細胞の品質評価をする共同研究を行うことで合意し、2022年6月20日に共同研究契約を締結した。

中原教授は、同研究を通して、患者自身の歯髄細胞から iPS 細胞を作製し、再生医療に用いられることを期待している。

周知のとおり、歯科の抜歯治療で得られる乳歯や智歯の歯髄には、多様な細胞に分化する能力（多分化能）を有する歯髄幹細胞の存在が知られている。本学では、中原教授を中心として、患者の歯髄細胞を培養・凍結保管することで、将来の再生医療への活用を目指し、歯科大学唯一の「歯の細胞バンク」に取り組んでいる。

iPS 財団は、拒絶反応などが生じにくい低リスク・低コストの iPS 細胞を、患者さん自身の細胞から作製する「my iPS 細胞プロジェクト」を進めている。2025年までに一人分の iPS 細胞を100万円で作製することを目標とし、現在は主に血液の細胞から iPS 細胞を作製する技術開発を行っている。

本年1月下旬には、中原教授らは、山中理事長・塚原研究開発センター長とオンラインで面談し、歯の細胞バンクで保管している歯髄幹細胞から iPS 細胞を作製することを提案した。

そこで、中原研究室で保管する歯髄幹細胞の凍結ストックを iPS 財団に提供し、iPS 細胞の樹立と品質評価を行う共同研究に着手することで合意した。本学としては、歯の細胞バンクに保管された歯髄細胞であれば、iPS 細胞の作製にすぐに提供することができるので、iPS 財団の進める“my iPS プロジェクト”にも活用できると期待している。

去る3月17日に開催された東京都港区麻布赤坂歯科医師会創立100周年/京都大学 iPS 細胞研究所設立10周年の創立記念市民公開講座において、山中教授らと共に登壇した中原教授は、成人の抜歯治療では完成した智歯が得られる一方、若年者から抜歯された未完成の智歯からは発生途上の細胞・組織を得ることができ、他の全身の

組織・臓器には見られない歯のユニークな特徴を説いた。

こうした歯の細胞は、皮膚の細胞よりも効率よくiPS細胞が作製できる報告もあり、なおかつ歯の細胞は優れた増殖能と多分化能を備えていることから、“歯の細胞”を起点とした再生医療の実現が待たれる。



山中伸弥教授(京都大学)と中原貴教授(本学)。本年3月の都歯・CiRA主催市民公開講座の控室にて

日本歯科大学新聞 第677号(令和4年7月発行)

中原爽前理事長・元学長逝去

本学の中原爽前理事長・元学長は、令和4年9月21日、東京富士見の本学附属病院において、多臓器がんのため死去した。享年86歳。葬儀は、家族葬で営まれた。
日本歯科医師会長9年 参議院議員を2期12年



中原爽先生は、昭和11年1月26日に生まれ、昭和35年3月に日本歯科大学を卒業(優秀賞)した。第49回卒。

昭和46年3月には、日本大学医学部を卒業(総長賞)した。

昭和47年4月、日本歯科大学教授(口腔外科学)

昭和49年4月、日本歯科大学歯学部長

昭和56年4月、日本歯科大学学長(平成3年3月まで)

昭和59年8月、学校法人日本歯科大学理事長(平成12年7月まで)

平成3年4月には、日本歯科医師会長・日本歯科医師連盟会長に就任し平成12年3月まで3期9年間を務めた。

平成7年7月、第17回参議院議員通常選挙の比例区

代表で初当選し、自由民主党の参議院議員となる。

平成12年7月、総理府・総括8政務次官に就き、同12月まで務めた。

平成13年7月に、第19回参議院通常選挙で再当選し、2期12年を務めた。

平成19年に旭日重光章。昭和39年に歯学博士、同49年に医学博士。



右より中原爽、實、泉、ひさえ(昭和41年2月4日・羽田空港)

日本歯科大学新聞 第680号(令和4年11月発行)

本館改修工事終わる

2020年4月よりすすめていた本学の東京富士見の本館棟の設備改修は、3年5ヵ月の工期を経て本年9月に終了した。

工事は、地上11階・地下2階の延床面積17,281.6m²(523坪)の電気・衛生・空調に関わる設備改修である。

本館棟は築30年になるため、コロナ下で学生授業等のなか、上階フロアから順次すすめられた。10月初旬より全室が従前の各室にもどった。

日本歯科大学新聞 第680号(令和4年11月発行)

■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

初のハノシゴトフェス開催 新潟県内の小中高生が参加

新潟生命歯学部と新潟短期大学の共催の初イベント「ハノシゴトフェスティバル2022」が、7月30日に新潟キャンパスにて実施された。歯やお口に関する仕事について広く知ってもらいたいという目的で、新潟県内の小学生・中学生・高校生を対象として、40組73人という多くの方にご参加いただいた。

小学1～5年生、小学6年生～高校生の2グループに分け、ハノシゴト・レクチャー、体験実習、フィールドゲーム、医の博物館ミュージアムツアーやクイズなど、

参加者に楽しく学んでもらえるよう多くのプログラムを取り揃えた。

参加者からは「コロナ対策もバッチリで安心して参加することができました」、「大学の先生方が優しく、すごくイメージが良くなりました」、「とても楽しかったのでこれからも続けてください」などの感想が寄せられ、大盛況であった。

今回のイベントは、広報部会の教職員が中心となって企画し、新潟生命歯学研究科の大学院生および新潟短期大学歯科衛生学専攻の専攻科生の協力を得て開催に至った。

新潟キャンパスでは、ハノシゴトムック本や、テレビCMおよび番組内での宣伝、SNS等を用いて、積極的に歯やお口に関わる仕事を広報している。



ファントムで口腔内を診査する小学生

日本歯科大学新聞 第679号（令和4年7月発行）

■ 神奈川歯科大学 ■

病院だより

防災訓練実施

2022年7月27日(水)、防災避難訓練を実施しました。コロナ禍により参加人数を縮小しての実施となりましたが、防災危機管理委員会を中心にコアとなるスタッフが災害時に適切、かつ迅速に対応できるようAR（拡張現実）を用いて訓練を行いました。

相模湾の沖合にて、マグニチュード8クラスの巨大地震が起き、横須賀市は震度6。津波が発生し浸水、10階では火災も同時に発生したことを想定し、煙が充満した中での消火器対応、ARスコープを用いて煙の中で非常



口誘導灯が確認できるかを検証、AR iPadを用いて津波による浸水から避難する体験をしました。

参加したメンバーからは、「AR（拡張現実）でのリアルな訓練をとおして、実際の災害での大変さを痛感した」「普段から避難経路の確認をしておきたい」「災害時には冷静、かつ速やかに行動できるよう色々な方にこの体験をしてほしい」などの感想がありました。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第44号（令和4年9月発行）

ねんりんぴっくかながわ 2022

横須賀市卓球交流大会に参加しました！

2022年11月6日(日)～9日(水)にかけて、第34回全国健康福祉祭（ねんりんぴっくかながわ）が開催され、全国から延べ約60万人（観客含）が参加しました。28のスポーツ交流大会・4つの文化交流会が県内各所で催され、横須賀市では横須賀アリーナをメイン会場に卓球交流大会が開催されました。

「市全体でのおもてなしを」（上地克明市長）という号令の下、多くの企業が協力する中、本学は神奈川県立保健福祉大学と共に「未病改善教室企画」に出展しました。

世情を鑑み、最も歯科大らしい「無料歯科検診」は断念し、その代わりに（株）エーザイの「脳機能診断」と、板宮朋基教授の「AR浸水疑似体験アプリ」を提供しました。

多くの選手・関係者の皆様が試合の合間にブースにお越しになり、iPadを使った15分のセルフチェック「のうKnow」は、ご高齢の皆様にも人気を博しました。特に広島県代表の皆様は事前に大会概要をチェックし「必ずやろう」と話していたとの事で、選手全員で訪れてくださいました。浸水体験は、選手よりも自治体の方々、県



や市の担当者の関心が高く「歯科大さん、このような技術をお持ちなんですか!」「リアル感が半端ない!」と驚かされていました。

2日間の出展では、様々な方々と交流し、その取り組みを通じて本学の認知度アップを果たせたと考えております。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第45号(令和5年1月発行)

クリニックだより

開設20周年を迎えて

横浜研修センター・横浜クリニックは、2002年7月にスタートし、おかげさまで20周年を迎えました。未曾有の災禍の中、一度は延期を余儀なくされましたが、2022年11月4日(金)に横浜ベイシェラトンホテル& Towersで開催した「開設20周年記念懇親会」の会場には、200余名という多数のご来場を賜りました。

当センター・クリニックは、全国に広く門戸を開いた研修施設として、次世代を担う歯科医師の臨床研究機関及び、生涯研修機関としての役割を担うと共に、医科・歯科診療部門についても更なる充実を図り、医科歯科連携を特徴とした施設として地域医療に貢献すべくスタッフ一同精進してまいります。これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第45号(令和5年1月発行)

■ 鶴見大学歯学部 ■

河端和音助教

日本私立学校振興・共済事業団

2022年度若手研究者奨励金 採択決定

日本私立学校振興・共済事業団2022年度若手研究者奨励金に、歯学部歯科麻酔学講座河端和音助教の「口腔顔面痛領域における慢性疼痛持続メカニズムの解明」(研究期間2022年4月から2023年3月、交付額40万円)が採択された。本奨励金は私立大学に所属する39歳以下の研究者が1人で行う研究を対象として交付されるもので、すべての分野の研究を応募対象としている。2022年度は37件が採択され、歯学分野では本研究が唯一の採択だった。河端助教は大学院時代より口腔顔面痛に関する研究を一貫して行っており、本奨励金による臨床研究を実施する予定である。

(歯科麻酔学講座教授 河原 博 記)



採択通知を持つ河端助教

鶴見大学報 第433号(令和4年7月発行)

歯学部附属病院 夜間火災想定消防訓練

6月20日(月)16時から歯学部附属病院において、当直歯科医師、看護師などを中心に入院病棟における夜間の火災発生を想定した自主訓練が実施され、防火に対する意識を高めた。



鶴見大学報 第433号 (令和4年7月発行)

解剖献体合同葬儀を厳修

7月26日(火)午後3時から、2号館解剖実習室において、令和4年度歯学部解剖献体合同葬儀が大本山總持寺副監院 勝田浩之老師により厳修された。



法要の様子

鶴見大学報 第434号 (令和4年10月発行)

交流活性化事業「歯医者さん体験」 を開催しました

8月18日(木)に神奈川県歯科医師会のご子息・ご子女を対象とした交流活性化事業「歯医者さん体験」を開催いたしました。

「未来の歯科医師を育成する」することを目標に今年度初めて開催されたもので、終了後、子どもたちからは「楽しかった」「歯医者さんになりたくなった」などの感



親子で歯医者さん体験

想が寄せられ、一緒に参加したご両親からも好評を得ました。

鶴見大学報 第434号 (令和4年10月発行)

■ 松本歯科大学 ■

本学がドローン操縦者養成の場に

陸上競技場を主会場に開校し

ドローンの普及で地域産業の振興に貢献

物流や防災、医療などさまざまな分野で活用が広がるドローン(無人航空機)の操縦技術を学べるスクールが、本年度中にも本学で開校できる見通しとなった。神奈川県内でドローンスクールを運営する企業と連携し、本学着穹会が運営母体となって地域貢献活動の一環で取り組む。本学関係者もインストラクター資格を取得予定で、学内外から受講者を募り、定期的に開催していく方向で準備を進めている。

本学と連携するのは、株式会社プラネットエビエーション(東京都)が神奈川・葉山で運営する「プラネットドローンスクール葉山校」。緑豊かな環境に立地し充実した設備を有する本学が、県外でのスクール展開を模索していた同社代表取締役でスクール管理者の原田 章さんらの目にとまった。

原田さんは日本航空の元パイロットで、「DC10」型機機長や操縦教官も務めた経験があり、航空法にも精通し



試験運転でドローンを飛ばす植野研修歯科医(右)



スクールで使用する DJI 社製「AIR2S」



上空からドローンで撮影した本学の全景

ている。原田さんは「松本歯科大学はドローンの講習会に適した環境を備えている。ドローンは遊びの道具ではなく、いろいろな活用方法があるので、ぜひ多くの方に関心をもってほしい」と語った。

Campus Today 第463号（令和4年8月発行）

日本歯科医学会 住友雅人会長が特別講演

日本歯科産業学会第37回総会・学術講演会
日本歯科理工学会中部地方会セミナーと共催

日本歯科産業学会第37回総会・学術講演会が7月30日(土)、31日(日)の両日、本学図書館学生ホールで開かれた。本学理工学講座の黒岩昭弘教授が大会長を務め、日本歯科理工学会中部地方会セミナーとのジョイント開催とし、「これからの歯科医療最前線」をメインテーマに、教育シンポジウムや一般講演、教育講演、特別講演などを行った。関係者が多数集まり、臨床や研究、開発に役立つ最新の情報に触れながら活発に意見交換した。

日本歯科産業学会は、歯科材料や機器の開発を担う業界の関係者と、歯科の臨床や学術研究に携わる関係者が情報や意見を交換することを通して、歯科材料や機器の開発、歯科医療の向上に貢献しようと活動している。

今回は、本学で一昨年開催を予定したものの新型コロナウイルス感染拡大のため誌上開催となった第75回日本歯科理工学会春季学術講演会の内容も一部盛り込んだプログラムとし、大会準備委員長は同講座の洞沢功子准教授が務めた。

特別講演では、日本歯科医学会の住友雅人会長が「日本歯科医学会の挑戦」と題して講演した。住友会長は日本歯科医学会の事業概要を説明し、高齢者人口がピークを迎える2040年問題をゴールに見据えた歯科イノベーションロードマップを明らかにした。開発テーマはオープンイノベーションとして誰もが利用できるように公表し、高齢者の健康寿命の延伸に貢献していくとした。また、口腔機能低下症などの新病名を定着させることがイノベーションにつながると述べ、臨学産官のコーディネート^①の推進を示した。

「歯科再生医療の最前線」をテーマにした教育シンポジウムでは、シンポジストのひとりとして本学学生化学講座の宇田川信之教授（歯学部長）が「骨はダイナミックに躍動している」と題して講演した。



講演する日本歯科医学会の住友会長



歯科再生医療をテーマにしたシンポジウム

Campus Today 第464号（令和4年9月発行）

横浜 DeNA ベイスターズから育成3位指名 東京都市大塩尻高の今野投手を応援

球団関係者や三浦校長らと来学

本学病院で口腔内検査とマウスガード製作

プロ野球のドラフト会議で横浜 DeNA ベイスターズから育成3位指名された東京都市大学塩尻高校の今野^{りゅうと}投手が10月26日(水)、本学を訪れ教職員らと懇談した。本学は地元の高校からプロ入りする今野投手の活

躍に期待を寄せ、口腔内検査とスポーツマウスガード製作で後押しした。

文部科学省が掲げる、高校教育と大学教育を一連のものにとらえて若者の学び・飛躍を支援する「高大接続改革」の取り組みの一環として、本学から口腔内検査とスポーツ用マウスガード製作を提案した。

今野投手は、歯科補綴学講座の樋口大輔教授の診察を受けた。樋口教授は、最新式の口腔内スキャナーを使って、今野投手にモニターで画像を示しながら口腔内を細かくチェックして現在の口腔内の状況を説明した。マウスガード製作に必要な印象採得を行い、「スポーツ選手は歯が『命』。マウスガードを使うことで競技力を向上させられ、歯の健康も保持できる」などと話した。



歯の状態について説明を受ける今野投手



スキャナーを用いた口腔内の検査

Campus Today 第466号(令和4年11月発行)

学内にソーラーカーポートが完成

年間電力消費量の約3割をまかない
大学全体の二酸化炭素排出量を26%削減

本学の屋外駐車場の一部を、太陽光発電パネルを屋根にした「ソーラーカーポート」に改修する工事が完了し、11月28日(月)に竣工記念式典が行われた。利用者の利便性を高めつつ、環境負荷の少ないクリーンエネルギーを独自に確保し活用することを通して、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを一段と加速させていく。

駐車場のソーラーカーポート化事業は、本学創立50年

記念事業として、昨年11月から病院第2駐車場と学生駐車場、職員駐車場のそれぞれ一部、計1万8300平方メートルで進めた。既存の駐車場に屋根を設置し、上部に2960枚の太陽光パネルを取り付け、駐車スペース506台分を確保した。

ソーラーパネルは8月から既に稼働していて、8月は330万円、9月は390万円の消費電力を節約するなど、本学全体の年間電力消費量の約3割を賄うペースで発電している。順調に稼働を続ければ、年単位で約3700万円分の消費電力を削減し、大学全体の二酸化炭素排出量を約26%削減できる見通しだ。

式典には大学関係者・施工関係者ら約40人が参列し、神事が執り行われた。矢ヶ崎 雅理事長は「冬季の駐車はフロントガラスが凍霜することがあり、屋根付き駐車場の設置はかねてから要望があった。ソーラー発電を伴うことで電力削減にもつながる」とあいさつし、関係各位に謝意を示した。

本学の取り組みは、環境省の「ソーラーカーポート等の新たな自家消費型太陽光等の導入支援事業に関する優良事例」に認定され、事業の象徴事例の一つとして、同省のホームページに詳しく紹介されている。



竣工記念式典におけるテープカットのセレモニー



夜間照明が灯ったソーラーカーポートの全景

Campus Today 第467号(令和4年12月発行)

■朝日大学歯学部■

「さくらサイエンスオンラインプログラム」を実施

本大学と海外交流協定を締結している北京大学口腔医学院とのオンライン交流「日本と中国における高齢者介護に係る介護職員および高齢者自身の口腔健康管理に対する意識の比較」が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「さくらサイエンスプログラム：国際青少年サイエンス交流事業」に採択され、6月7日にオンラインプログラムを実施しました。

この事業は、日本と世界の科学技術の発展と青少年の交流を目的とし、日本の科学技術分野の最先端技術を紹介するためにオンライン交流を行う大学や企業・団体等に、JTSが支援する事業です。



北京大学口腔医学院の参加者

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第141号
(令和4年9月発行)

若手研究者が名誉ある賞を受賞

「肉眼解剖学トラベルアワード」

本大学歯学部助教（口腔解剖学分野）の櫻屋透真先生が「第127回日本解剖学会総会・全国学術集会」において発表した「ヒト上科におけるヒラメ筋支配神経筋内分布の比較解剖学的研究」が高く評価され、「肉眼解剖学トラベルアワード（献体学術賞）」を受賞されました。



「肉眼解剖学トラベルアワード」を受賞された櫻屋先生

「日本口腔科学会中部地方会新人賞」

本大学大学院歯学研究科院生（口腔外科学分野：摂食嚥下リハビリテーション学専攻）の多田瑛先生が、「第76回日本口腔科学会学術集会」において、「機能的障害

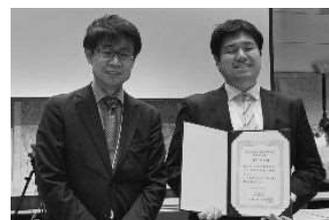
における鼻咽腔閉鎖機能不全の嚥下補助装置の効果」の発表が高く評価され、「日本口腔科学会中部地方会新人賞」を受賞されました。



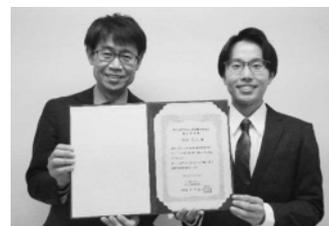
「日本口腔科学会中部地方会新人賞」を受賞された多田先生

日本小児科学会「優秀発表賞」

本大学歯学部（小児歯科学分野）の特別研究生 清川裕貴先生とポストドクターの吉安慧人先生が「第60回日本小児歯科学会大会」において、以下の発表が高く評価され「優秀発表賞」を受賞されました。



「優秀発表賞」を受賞された清川先生(右)
「糖尿病患児由来乳歯歯髄細胞を用いた臓臓特異的幹細胞(T1D-iTSC-P)の樹立」



「優秀発表賞」を受賞された吉安先生(右)
「S-PRG フィラー含有マウスガードとペースト併用による人工的初期齲蝕の再石灰化メカニズム」

今後、先生方の益々のご活躍が期待されます。

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第141号
(令和4年9月発行)

大規模災害の発生に備える

災害歯科保健医療チーム研修会を開催

穂積キャンパス内の医科歯科医療センターで5月21日に、「第1回災害歯科保健医療チーム研修会」が開催されました。

同研修会は、大規模災害の発生時に、岐阜県歯科医師会及び歯科衛生士会やその他関係団体との連携をはか

り、円滑な災害歯科保健医療の体制が速やかに整えられることを目的としたものです。

研修会では、岐阜県歯科医師会の中瀧誠治常務理事、県災害歯科保健医療部会の森康志委員長、本大学歯学部横矢隆二准教授が講師を務め、災害歯科保健医療に関する講義を受講し、その後、グループワークと結果発表を行い、大規模災害発生時に必要となる行動についての理解を深めました。



研修を終え、受講修了証を手にする参加者

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第141号
(令和4年9月発行)

岐阜県で初導入!!

SDGsに資する最新MRI導入

朝日大学病院（岐阜市橋本町）では、最新型の磁気共鳴画像装置（MRI）を導入しました。同装置は、磁石部を冷却するヘリウムを従来型に比べ大幅に減少させたモデルで、東海地区の医療機関で2例目、岐阜県内では初の導入となります。

従来型では、これまで年間数百ℓの液体ヘリウムが使われていましたが、導入された新型は数ℓの使用で済むため、貴重な天然資源の使用量削減につながると共に、国連が推し進める「持続可能な開発目標 SDGs」に資することになります。

大手医療機器メーカーのフィリップ社製MRIは、検査時に音や映像が流れ、寝台のある中央部の直径も広まったことで、患者様の不安解消と快適さが増した検査機器です。



県内初の新型MRI

同病院の日下義章院長は、「最新型MRIの導入により先進的医療の提供と、地域医療の充実に貢献したい」と語りました。

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第142号
(令和4年11月発行)

■愛知学院大学歯学部■

令和4年度第60回解剖慰霊祭 及び返骨式が執り行われました

令和4年10月7日(金)、楠元キャンパスにて、令和4年度第60回解剖慰霊祭がしめやかに執り行われました。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に留意し、ご遺族、ご来賓及び教職員・学生が参列し、歯学の発展のためご遺体を本学における解剖に献体された故人の御霊に対し、ご冥福をお祈りしました。

続いて、解剖学講座 池田やよい主任教授からご遺族の元にご遺骨をお返ししました。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和4年10月掲載）

野口俊英名誉教授が 秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章

令和4年11月3日付で発表された秋の叙勲において、

本学の野口俊英名誉教授（元歯学部歯周病学講座教授）が瑞宝中綬章（教育研究功労）を受章されました。

野口名誉教授は歯学部長、歯学研究科長を歴任し、本学の歯学教育に尽力されました。永年にわたる教育・研究の功績に敬意を表します。

愛知学院大学歯学部ホームページ（令和4年11月掲載）

歯学部学生が 名古屋市と歯周疾患検診の リーフレットを作成中

名古屋市と愛知学院大学は連携・協定による活動を推進し、市民サービスの一層の向上、地域の活性化等に取り組むことにより、相互の持続的な発展を図ることを目的として連携・協力に関する包括協定を締結しました。

連携事業のひとつとして、歯学部は名古屋市歯周疾患検診のリーフレットの作成に協力しています。名古屋市は40歳以上が対象だった歯周疾患検診を2022年10月1日より20歳以上に引き下げました。ただ、若者の受診率はまだまだ低いとのことで、同世代の歯学部学生のアイデアを盛り込んだリーフレットを作成することになりました。

3年生から5年生、22名が参加しており、「歯周病になると何が困るのか書いてほしい」「検索はQRコードで簡単に」「グラフを入れるより『〇人に1人は歯周病』などわかりやすく」など、具体的な提案がされています。2023年の春頃には完成し、配布される予定です。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和4年12月掲載）

歯学研究科長 前田初彦教授 モンゴル最高位勲章を受章

令和4年12月に本学大学院歯学研究科長である前田初彦教授（口腔病理学・歯科法医学講座）が、「口腔病理学」の分野でモンゴルでの人材育成に貢献したとして「北極星勲章」を受章しました。同国が外国人に贈る勲

章としては最高位のものであります。

愛知学院大学歯学部ホームページ（令和5年1月掲載）

大阪歯科大学

大阪歯科大学附属病院 最新型デジタル3.0T MRI装置 導入式典



左から中嶋正博病院長、川添理事長・学長、有地淑子主任教授

フィリップス社（オランダ）製 Ingenia Elition3.0T MRI装置の導入にあたり、本学の川添堯彬理事長・学長、中嶋正博病院長、歯科放射線学講座 有地淑子主任教授（中央画像検査部長）が出席され式典が行われました。

デジタル3.0T MRI装置への更新により従来の1.5Tに比べ短時間でより高精細な画像を得ることができ、一段と精密な質の高い画像診断が期待され、更なる地域医療への貢献が果たせるようになりました。



大阪歯科大学附属病院ホームページ（令和4年6月掲載）

京都聖母学院高等学校と 高大連携・接続協定に調印しました

京都聖母学院高等学校と本学は5月30日、楠葉キャンパスで調印式を行い、「高大連携・接続教育の協力に関する協定」を締結しました。この協定の趣旨は、人



左：京都聖母学院高等学校 川口恒久校長、
右：大阪歯科大学 川添堯彬理事長・学長

的・物的資源の交流・活用を通じて新たな学びの場を創造し、教育内容の充実と学生・生徒の資質向上を図るといふもの。系列の香里ヌヴェール学院高校と2016年に「教育の連携協力に関する協定」を結んでいる本学にとり、学校法人聖母女学院との提携は今回で2例目。式には、京都聖母学院高等学校から川口恒久校長、畑中佳月代教頭、井口壮亮入試広報部長が、本学からは川添堯彬理事長・学長、田中昭男副学長らが出席しました。

この中で、川添理事長・学長は、来年創立100周年を迎える同学院に祝意を述べたうえで、医療系総合大学化というビジョンを掲げ、2024年度に看護学部（仮称）開設を構想中である本学について紹介。「この協定は、社会の持続的な発展を支え、生きる力を育成していく、将来を担う人材育成の第一歩になると確信しています」と挨拶しました。

これに対し、川口校長は「本校の看護系大学進学コースの生徒たちは、2024年に看護学部（仮称）を創設される大阪歯科大学に関心をもっている。その大学でプログラムを学べることに大きな期待を寄せています」と応じられました。

両校の協力によって、今後この協定が有意義かつ実り多いものとなるよう願われます。

●連携・協力事業

1. 教育に対する相互支援
2. 生徒及び学生の相互交流
3. 社会貢献活動における交流
4. 教職員の教育についての情報交換、相互交流

大阪歯科大学ホームページ（令和4年6月掲載）

「枚方市SDGs推進登録制度」に認定されました

本学は、枚方市の「枚方市SDGs取組方針」に賛同して、大学のSDGs推進活動を「枚方市SDGs推進登録制度」に登録申請し、2022年8月29日付で同市から認定を受けました。

枚方市内に所在する大学では最初の事業所登録となり

ます。

大阪歯科大学は、今後も地域と連携しながら、SDGsの達成をめざして教育・研究活動を行ってまいります。



大阪歯科大学ホームページ（令和4年11月掲載）

川添堯彬理事長・学長が旭日中綬章を受章しました

令和4年秋の叙勲受章者が11月3日付で発表され、本学の川添堯彬理事長・学長に旭日中綬章が授与されました。旭日章は政治家や民間人に贈られる勲章で、川添先生は長年にわたり理事長・学長職を務め、私立学校教育の振興に寄与した功績が特に顕著と認められ、この度の栄えある受章となりました。ちなみに、今回の旭日中綬章にはファッションデザイナーのコシノジュンコさん、漫画家の萩尾望都さんらが選ばれています。

今回の吉報に接し、川添理事長・学長は次のように感懐を述べています。「この度の叙勲は、大学のためにも私個人のためにも大変悦ばしいこととありがたく思っております。現役での受章は、やり残した事業や活動が未だ道半ばであり、新たなチャレンジへの励みと考え、今後も持続可能な事業として根気よく挑戦し続けてまいります」

川添理事長・学長にはこれからも健康に留意され、本学の舵取りにあたって、その力をますます発揮していかれることが期待されます。



大阪歯科大学ホームページ（令和4年11月掲載）

■ 福岡歯科大学 ■

創立 50 周年記念式典を開催

2022年に学校法人福岡学園ならびに福岡歯科大学が創立50周年を迎えたことを記念し、7月24日に創立50周年記念式典を挙行了しました。

本式典には、行政や自治体、同窓生、連携大学および医療機関など多数の関係者が参列しました。水田祥代理事長は、学園創設から今日に至るまでのご支援・ご協力に感謝の意を述べるとともに、『『学生が学びたい大学』、『学生が意欲を持って学び、卒業生が誇れる母校』、『地域の歯科医療・保健・福祉への貢献』、『口腔医学の確立による医学、歯学、看護学の進展への寄与』を目指すほか、人生100年時代を見据えた健康長寿社会を支える医療、保健、福祉分野の人材育成の総合学園としてさらに発展していく』と、これからの決意を述べました。



50周年記念式典の様子

福岡学園広報誌 Vol.30 No.4 (第116号)

(令和4年10月発行)

学校法人福岡学園および福岡歯科大学 50周年記念講堂が完成

2022年7月、旧福岡歯科大学医科歯科総合病院の跡地に「50周年記念講堂」が完成しました。学校法人福岡学園および福岡歯科大学の「50年の実り」を形にするというデザインコンセプトで建築され、館内は赤色をメインカラーとして彩られています。

1階には学生食堂がリニューアルオープンし、緑・黄色・オレンジ・赤色の天井は、トマトの実りをイメージしており、学生たちが大学生活を通して、完熟した真っ赤なトマトのように育ってほしいという願いが込められています。



50周年記念講堂



リニューアルした学生食堂

福岡学園広報誌 Vol.30 No.4 (第116号)

(令和4年10月発行)

保健管理センターを開設

心身の健康の維持および増進を目的として、保健管理センターを2022年9月1日に開設しました。医師や看護師、臨床心理士など様々な職種スタッフがそれぞれの専門性を活かしながら、学生や教職員の心身の健康に関する相談に対応しています。



保健管理センター

福岡学園広報誌 Vol.30 No.4 (第116号)

(令和4年10月発行)

看護師を目指す学生らと 多職種連携介護実習を実施

同法人の福岡看護大学と合同で『多職種連携介護実習』を実施しました。参加したのは福岡歯科大学第3学年と福岡看護大学第4学年の学生201名で、数班に分かれて高齢者への対応に必要な身体介護の基本的なスキルや食事介助・口腔ケアなどの基本的介護技法を学びました。学生たちは要介護者へのチーム介護や多職種連携の在り方などについて各班で意見を交わし、理解を深めていました。



看護大学生が歯科大学生の口腔内を確認する様子

福岡学園広報誌 Vol.31 No.1 (第117号)

(令和5年1月発行)

協会役員・部会・委員会名簿

一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役職名	氏名	所属大学および役職名
会長	三浦 廣行	岩手医科大学 副学長・歯学部 部長
副会長	大友 克之	朝日大学 学長
副会長	本田 和也	日本大学 歯学部 部長
副会長	藤井 一維	日本歯科大学 学長
専務理事	羽村 章	日本歯科大学 生命歯学部 教授
常務理事	櫻井 孝	神奈川歯科大学 学長
常務理事	高橋 裕	福岡歯科大学 学長
常務理事	一戸 達也	東京歯科大学 学長
常務理事	榎 宏太郎	昭和大学 歯学部 部長
理事	川添 堯彬	大阪歯科大学 理事長・学長
理事	大久保 力廣	鶴見大学 歯学部 部長
理事	古市 保志	北海道医療大学 歯学部 部長
理事	宮田 淳	明海大学 理事長
理事	小方 頼昌	日本大学 松戸歯学部 部長
理事	瀬川 洋	奥羽大学 歯学部 部長
理事	宇田川 信之	松本歯科大学 歯学部 部長
理事	本田 雅規	愛知学院大学 歯学部 部長
監事	牧村 正治	日本大学 名誉教授
監事	菱田 健治	朝日大学 監事

(R5.3.31 現在)

教育・研究部会

部会長：櫻井 孝
日本私立歯科大学協会常務理事
神奈川歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
岸光男	岩手医科大学歯学部教務委員長
金秀樹	奥羽大学歯学部学生部長
坂英樹	明海大学歯学部教務部長
山本仁	東京歯科大学副学長
横宏太郎	昭和大学歯学部長
林誠	日本大学歯学部学務担当
小見山道	日本大学松戸歯学部学務担当
沼部幸博	日本歯科大学生命歯学部長
藤井一維	日本歯科大学学長
槻木恵一	神奈川歯科大学副学長
早川徹	鶴見大学副学長・教務・学生部長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
田村康夫	朝日大学副学長・歯学部長
本田雅規	愛知学院大学歯学部長
田中昭男	大阪歯科大学常務理事・副学長・歯学部長
稲井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R5.3.31 現在)

病院部会

部会長：横 宏太郎
日本私立歯科大学協会常務理事
昭和大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
川上智史	北海道医療大学病院副病院長
佐藤和朗	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター歯科医療センター長
大野敬	奥羽大学歯学部附属病院長
横瀬敏志	明海大学歯学部病院長
山下秀一郎	東京歯科大学水道橋病院長
馬場一美	昭和大学歯科病院長
飯沼利光	日本大学歯学部付属歯科病院長
河相安彦	日本大学松戸歯学部付属病院長
内川喜盛	日本歯科大学附属病院長
山口晃	日本歯科大学新潟病院長
井野智	神奈川歯科大学附属病院長
小川匠	鶴見大学歯学部附属病院長
矢島安朝	松本歯科大学病院長
藤原周	朝日大学医科歯科医療センター長
長尾徹	愛知学院大学歯学部附属病院長
中嶋正博	大阪歯科大学附属病院長・理事
坂上竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R5.3.31 現在)

経営部会

部会長：大友 克之
日本私立歯科大学協会副会長
朝日大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
山本和博	岩手医科大学事務局長
車田文雄	奥羽大学事務局長
中山浩之	明海大学事務局長
片倉朗	東京歯科大学副学長・千葉歯科医療センター長
倉口秀美	昭和大学学事部長
筒井仁	日本大学歯学部事務局長
谷龍樹	日本大学松戸歯学部事務局長
谷村龍三	日本歯科大学経理部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
菅原光則	神奈川歯科大学法人事務局長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
田中聡	朝日大学事務局長
日比茂久	愛知学院大学歯学部次長
下村錢三郎	大阪歯科大学常務理事
井手孝行	福岡歯科大学事務局長

(R5.3.31 現在)

広報委員会

委員長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
古川幸治	奥羽大学事務長
高山裕子	明海大学歯学部庶務課長
橋本貞充	東京歯科大学広報・公開講座部長
吉岡由貴	昭和大学総務部総務課係員
山崎和彦	日本大学歯学部庶務課長
勝俣剛勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
北見公一	日本歯科大学生命歯学部用度営繕部長
本宮山比子	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
櫻井一義	神奈川歯科大学総務部総務課長
平野 司	鶴見大学総務部総務課長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
纈纈 力	朝日大学入試広報部入試広報課長
関谷常德	愛知学院大学歯学部事務長
松村誠一	大阪歯科大学管理部長
都築 尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副院長

(R5.3.31 現在)

受験生確保対策委員会

委員長：本田 和也
日本私立歯科大学協会副会長
日本大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
渡邊義典	岩手医科大学入試・キャリア支援課長
谷代尚人	奥羽大学学事部長
伊藤 敦	明海大学歯学部事務部長
船山雅史	東京歯科大学教務課長
井上信之	昭和大学入学支援課長
横田 正	日本大学歯学部教務課長
中澤謙司	日本大学松戸歯学部教務課長
中世古大介	日本歯科大学東京短期大学事務長
五十嵐謙介	日本歯科大学新潟生命歯学部教務部係長
菅谷 彰	神奈川歯科大学副学長・教学部学生担当部長
西村勇氣	鶴見大学入試センター事務長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
関谷常德	愛知学院大学歯学部事務長
野崎中成	大阪歯科大学アドミッションセンター長
稲井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R5.3.31 現在)

研修委員会

委員長：櫻井 孝
日本私立歯科大学協会常務理事
神奈川歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
谷代尚人	奥羽大学学事部長
伊藤 敦	明海大学歯学部事務部長
橋本正次	東京歯科大学法人主事
大矢 敦	昭和大学給与厚生課長
佐々木孝全	日本大学歯学部事務長
勝俣剛勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
北見公一	日本歯科大学生命歯学部用度営繕部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
藤原 剛	神奈川歯科大学総務部人事課長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
関谷常德	愛知学院大学歯学部事務長
児玉 孝	大阪歯科大学法人事務局長
古村南夫	福岡歯科大学医科歯科総合病院副院長

(R5.3.31 現在)

歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会常務理事
東京歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
川上 智史	北海道医療大学病院副院長
佐藤 健一	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
山森 徹雄	奥羽大学歯学部教授
横瀬 敏志	明海大学歯学部病院長
平田 創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
長谷川 篤司	昭和大学歯学部教授
武市 収	日本大学歯学部卒業教育担当
平山 聡司	日本大学松戸歯学部卒業教育担当
小川 智久	日本歯科大学生命歯学部臨床研修管理委員会プログラム責任者部会長
二宮 一智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
大橋 桂	神奈川歯科大学附属病院総医局長・研修管理委員長
山口 博康	鶴見大学歯学部学内教授
宇田川 信之	松本歯科大学歯学部長
藤原 周	朝日大学医科歯科医療センター長
小島 規永	愛知学院大学歯学部講師
百田 義弘	大阪歯科大学学生部長
坂上 竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R5.3.31 現在)

診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会常務理事
東京歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長澤 敏行	北海道医療大学歯学部教授
三浦 廣行	岩手医科大学副学長・歯学部長
鈴木 史彦	奥羽大学歯学部教授
横瀬 敏志	明海大学歯学部病院長
村松 敬	東京歯科大学臨床教育委員長
長谷川 篤司	昭和大学歯学部教授
飯沼 利光	日本大学歯学部付属歯科病院長
小宮 正道	日本大学松戸歯学部付属病院副院長
五十嵐 勝	日本歯科大学生命歯学部教務部長
海老原 隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
星 憲幸	神奈川歯科大学附属病院副院長・教育企画部教授
友成 博	鶴見大学歯学部教授
亀山 敦史	松本歯科大学教授
石神 元	朝日大学歯学部臨床実習センター長
木本 統	愛知学院大学歯学部教務委員長
山本 一世	大阪歯科大学教務部長・理事
坂上 竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R5.3.31 現在)

附属病院感染対策協議会

議長：榎 宏太郎
日本私立歯科大学協会常務理事
昭和大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
永易 裕樹	北海道医療大学歯学部教授
八重柏 隆	岩手医科大学歯学部教授
板橋 仁	奥羽大学歯学部准教授
星野 倫範	明海大学歯学部医療安全執行部長
高野 正行	東京歯科大学水道橋病院副院長
代田 達夫	昭和大学歯学部教授
米原 啓之	日本大学歯学部学部長
山口 秀紀	日本大学松戸歯学部付属病院副院長
石垣 佳希	日本歯科大学生命歯学部教授
水谷 太尊	日本歯科大学新潟生命歯学部准教授
沢井 奈津子	神奈川歯科大学歯学部准教授
長谷川 雅子	鶴見大学歯学部講師
栗原 祐史	松本歯科大学教授
安田 順一	朝日大学歯学部准教授
宮地 齊	愛知学院大学歯学部准教授
松本 和浩	大阪歯科大学講師
橋本 憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R5.3.31 現在)

賛助会員企業

紹

介

コ

ー

ナ

ー



吉田精工株式会社

弊社は1906年に創業されたヨシダグループの生産部門を担うメーカーとして1969年に設立されました。

主な製品は、歯科用ユニットや歯科用レントゲン、エアタービンを製造していますが、なかでも、歯科用ユニットは創業以来40年以上にわたり一番の主力商品として、地域医療の発展や歯科医師の育成に貢献し続けてきました。歯科器械の開発では機械工学、精密工学、電子工学、人間工学、心理学、デザイン等の幅広い技術と感性を持ち寄ります。そして、これらをベースに、長年の実績に裏打ちされた職人技と3Dプリンターなどの最新技術を融合させたものづくりで、日本の歯科医療産業界を支え、着実な成長を遂げてきました。これからは私たちは地域医療の現場と経営を支えるよきパートナーとして人々の健康と笑顔を創造し続けてまいります。さらに日本私立歯科大学協会の会員の皆様と協力し合い、日本が誇る世界最先端の歯科医療をさらに進歩させていきたいと考えておりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 山中 通三

事業内容

歯科用ユニット、チェアー、エアタービン、デンタルエックス線、ポータブルエックス線の製造販売、輸出、修理。



所在地

〒311-3506

茨城県行方市八木蒔 660

TEL 0299-57-0111

FAX 0299-57-0711

<https://yoshidaseiko.co.jp>

沖歯科要材株式会社

弊社は1976年に歯科材料、機器等の販売を行う会社として設立し、今年で47周年を迎えます。昨年6月には、コロナ禍で開催延期となっていた37回目の「OKI デンタルフェア」を3年振りに開催し、県内の多くの歯科医師、並びにデンタルスタッフ、歯科学生の皆様がご来場下さり、大変喜んでいただきました。弊社のコンセプトは「信頼」、これからはお客様から愛され、社会から必要とされる会社を、そして経営を目指して行きます。

遡るところ、創業者は1959年に沖歯科グループの基盤となる歯友会歯科専門学校及び附属歯科診療所を設立、その学校は現在、明倫短期大学として21世紀の歯科衛生士、歯科技工士を育成するために努力しています。これからは当グループ創立の理念のもとに、国民医療と共に歩み、医療教育機関として、また歯科医療に貢献できる企業として、社員と共に成長して参りたいと考えています。今後とも皆様の一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

事業内容

- ・デンタルオフィス開設のための設計・マネープランニング・施行
- ・歯科用ユニット・CT・3D機器の販売からメンテナンス
- ・デジタルレントゲンとLANシステム有効活用へのアドバイス
- ・歯科機器全般・歯科材料・薬品・書籍の販売
- ・歯科大学教育器材の紹介及び販売



代表取締役社長

佐藤 博行

所在地

〒950-2074

新潟県新潟市西区真砂3丁目23番2号

TEL 025-266-5141 代表

FAX 025-231-0802

一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿

■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部
 岩手医科大学歯学部
 奥羽大学歯学部
 明海大学歯学部
 東京歯科大学
 昭和大学歯学部
 日本大学歯学部
 日本大学松戸歯学部
 日本歯科大学生命歯学部
 日本歯科大学新潟生命歯学部
 神奈川歯科大学
 鶴見大学歯学部
 松本歯科大学
 朝日大学歯学部
 愛知学院大学歯学部
 大阪歯科大学
 福岡歯科大学

■賛助会員■

(株) シ ラ ネ
 (株) ヨ シ ダ
 デンツプライシロナ(株)
 長田電機工業(株)
 (株) 東京技研
 (株) ジーシー
 吉田精工(株)
 (株) 八 甕
 サ サ キ(株)
 (株) モ リ タ
 (株) ニ ッ シ ン
 (株) 松 風
 (株) モ リ タ 製 作 所
 日本歯科薬品(株)
 (株) 玉井歯科商店
 (株) A D I . G
 石福金属興業(株)

沖 歯 科 要 材 (株)
 (株) J M O r t h o
 (株) トクヤマデンタル
 (株) ミ ク ロ ン
 (株) モリタ東京製作所
 (株) Y D M
 サンメディカル(株)
 (株) 田中歯科器械店
 医歯薬出版(株)
 (株) ブイ・エス・シー
 (株) E P A R K
 メ デ イ ア (株)

◇編集後記◇

協会広報第85号をお届けします。

今号の巻頭言は、奥羽大学の清浦有祐学長からいただきました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せくださるようお願いいたします。

広報委員長（協会常務理事）
 高橋 裕

令和5年3月31日発行

日本私立歯科大学協会広報 第85号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 三浦 廣行

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階

電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069

協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：(株) 日本出版サービス

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題字】初代会長 白数美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化（初代専務理事 宮田佑先生による）